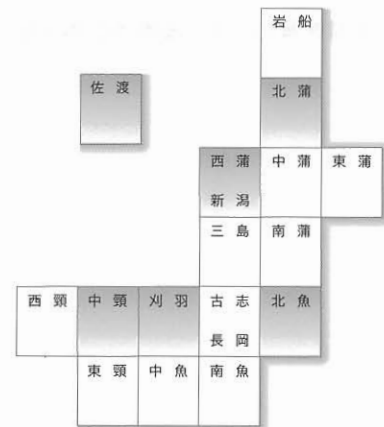


## 【選定理由】減少

【形態と近似種】川原や海に近い日当たりのよい砂地に生える半低木。全体に黄褐色の軟毛がある。頂小葉は長楕円形。花期は7～9月、花は帯黄白色。長い総状花序に多数の花がつく。メドハギやネコハギの花序は基部の葉より短い。

【分布の状況】本州から琉球に分布する。県内では新潟市、西蒲原郡巻町、刈羽郡刈羽村、柏崎市、小千谷市、中頸城郡大潟町、両津市、佐渡郡金井町、真野町、佐和田町に分布記録がある。

【生育を脅かしている原因】観光開発、海岸整備。

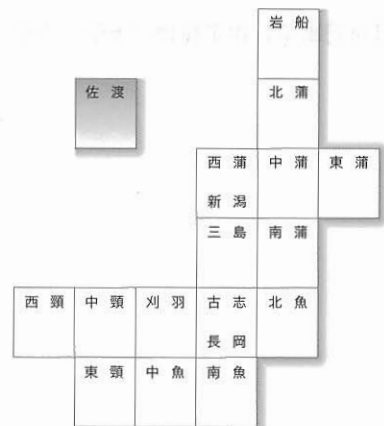


## 【選定理由】減少

【形態と近似種】海岸に生える多年草。太い地下茎がある。小葉は3枚で卵形、楕円形または倒卵形、鈍頭。葉の表面は無毛、葉裏に白軟毛がある。花期は5～8月。花は黄色。一見ルピナスに似るが、ルピナスの葉は掌状に5～15片に裂ける。

【分布の状況】北海道、本州中部以北に分布する。県内では佐渡の海岸に生育する。

【生育を脅かしている原因】草地の減少、海岸整備。

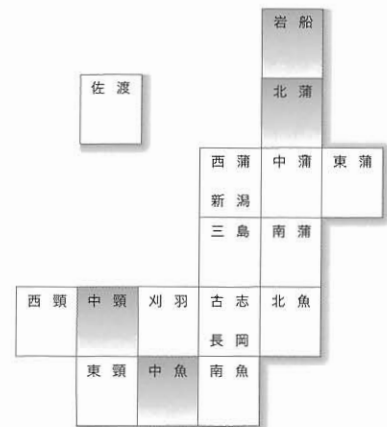


【選定理由】 減少

【形態と近似種】 湿地に生える多年草。直立する茎に葉を互生する。茎頂に5枚の葉を散状につけ、その葉腋から5本の枝を出し、各枝に杯状の花序を頂生する。花期は4～5月。花序の下部の苞葉は倒卵形で、鮮やかな黄色、遠くから見ると花弁のように見える。子房には円錐状の突起が密生し、腺体は全縁で楕円形。近似種のトウダイグサの子房には突起がない。タカトウダイは子房の突起が鈍頭。ナツトウダイは腺体が三日月形。

【分布の状況】 北海道から九州に広く分布する。県内では北部の岩船郡神林村、村上市、北蒲原郡中条町、新発田市、西部の上越市、中頸城郡頸城村、中魚沼などに分布する。

【生育を脅かしている原因】 水湿地の減少。



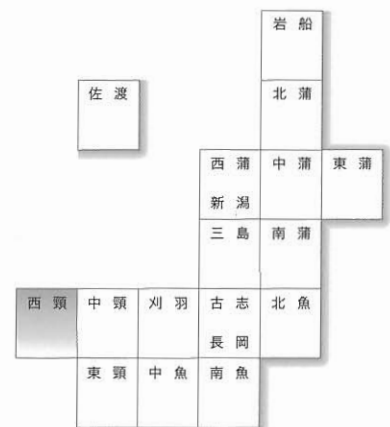
【選定理由】 減少、採取、局限・孤立

【形態と近似種】 山地の草原に生える多年草。葉は狭長披針形、中肋に短軟毛が密に生え、縁に密に細鋸歯がある。花期は6～7月。腺体は全縁で楕円形。全形がタカトウダイに似るが、本種では子房の外側のいぼ状突起の間から長い開出毛を生じ、この点で区別できる。

【分布の状況】 北陸地方、長野県北部から東北地方にかけて分布する。県内では糸魚川市雨飾山、朝日岳などに分布する。

【生育を脅かしている原因】 人の立ち入り、採取、自然災害。

【特記事項】 指定植物（上信、中部）。



**クロカンバ** *Rhamnus costata* Maxim.

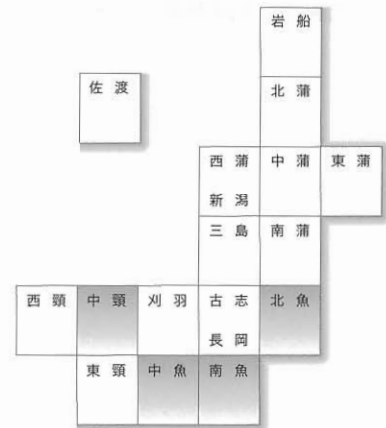
新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー

【選定理由】 減少、局限・孤立

【形態と近似種】 山地に生える落葉低木で、枝はやや太い。葉は対生し、長楕円形で長さ8~17cm、幅4~9cmで細鋸歯があり、先端は尖る。葉の下面の脈上には黄褐色の軟毛がある。花は5~6月ごろ葉腋に数個ずつつき、黄緑色である。果実は倒卵状球形で熟すと黒くなる。

【分布の状況】 本州、四国の山地に希に分布するとされているが、県内でも希産種で、南部、西部でわずかに確認されているにすぎない。いずれも海拔800m前後のところである。

【生育を脅かしている原因】 生育地がごく限られているので林道の整備や伐採などの森林の改変によって絶滅の危険性が高い。開発にあたっては十分な配慮が必要である。



**チシマウスバスミレ** *Viola blandaeformis* Nakai var. *pilosa* Hara

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

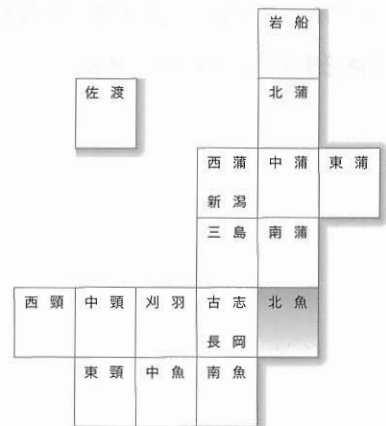
【選定理由】 減少

【形態と近似種】 高山の湿地に生育する繊細な多年草。高さ8cm、地下茎は肥厚せず細い。葉は少数でまばらに出て、長さ7~18mm、幅9~23mm、腎円形で薄く、低い鋸歯がある。初夏に長さ7~8mmの白い花が咲き、距は極めて短い。母種ウスバスミレの葉は無毛であるが、本変種の葉は有毛である。

【分布の状況】 国内では北海道東部、本州中北部に分布する。県内では北魚沼の1カ所だけで分布が確認されている。母種のウスバスミレも飯豊山、苗場山、白馬山の高海拔地に希に分布する。

【生育を脅かしている原因】 登山者の増加による踏圧や採取が生育を脅かす。

【特記事項】 指定植物（磐梯、上信）。



スミレ科

# ヒゴスミレ

*Viola chaerophylloides* (Regel) W.Becker  
var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境庁カテゴリー

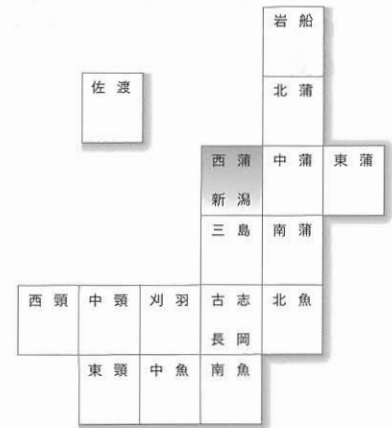
【選定理由】 採取、希少

【形態と近似種】 葉が3全裂し、側小葉はさらに2全裂し、各裂片は線形である。葉の長さ1.5~2.5cm、柄は4~12cm。果期の葉は大きく、長さ3~4cm。春に白い花が咲き、やや小さく、花弁の長さ10~15mm、距の長さ4~6mm。3全裂する葉が県内に分布する他のスミレ属と違う。

【分布の状況】 国内では本州から九州に分布する。県内分布は極めて希である。

【生育を脅かしている原因】 山野草の愛好家により採取されるおそれがある。

【特記事項】 指定植物（日光）。



スミレ科

# イソスミレ(セナミスミレ)

*Viola grayi* Franch. et Savat.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境庁カテゴリー

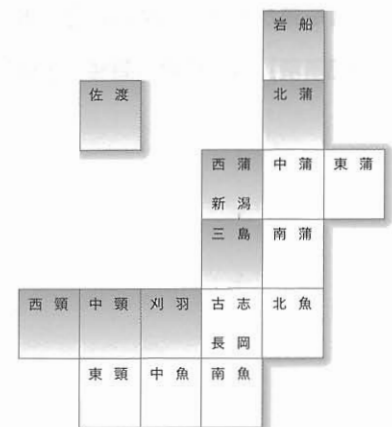
【選定理由】 減少

【形態と近似種】 海岸の砂地に生育する。茎はそう生し、高さ5~10cm。葉は扁円心形、幅1.5~3.5cm、先は尖り、基部は心形、低い鋸歯がある。初夏に紫色の花が咲き、やや大きく、花弁の長さ6~8mm、距の長さ5mm。タチツボスミレやオオタチツボスミレに似るが、本種は地下茎が木化、肥大し、著しく深く伸びる。

【分布の状況】 国内では北海道西南部、本州日本海沿岸に分布する。県内では海岸沿いに分布する。

【生育を脅かしている原因】 海岸砂地の開発、廃棄物投棄、観光、海水浴客による踏圧や採取などが本種の生育を脅かす。

【特記事項】 指定植物（瀬波）。



オオバタチツボスミレ

*Viola langsdorfii* Fisch.  
subsp. *sachalinensis* W.Becker

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

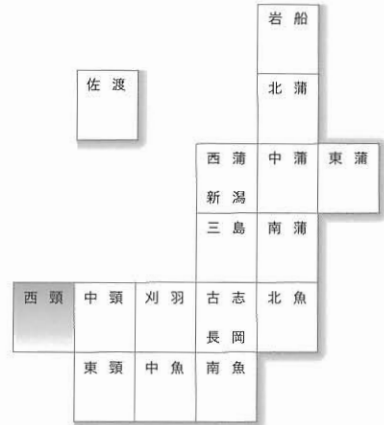
【選定理由】 採取、希少、局限・孤立

【形態と近似種】 湿地に生育する大型の多年草。根出葉は少数で、花期には枯れる。茎は高く20~40cm、倒れやすく、3~4枚の葉をつける。葉は円心形で長さ3~7cm、波状の鋸歯があり、先端は鈍頭、基部は心形。托葉も大きく長さ1~2cm。初夏に紫色の花が咲き、大きく、花弁の長さ15~20mm、距の長さ3~4mm。花は日本のスミレ属の中で最大である。

【分布の状況】 国内では北海道、本州中部に分布する。県内では西頸城にごく希に分布する。

【生育を脅かしている原因】 湿地の開発、破壊、採取などのおそれがある。

【特記事項】 指定植物（日光、越後）。



アナマスミレ

*Viola mandshurica* W.Becker var. *crassa* Tatew.

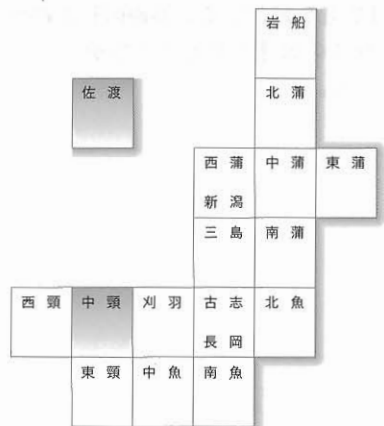
新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー

【選定理由】 減少、採取

【形態と近似種】 スミレの変種で、海岸砂地に生育する。母種と比べて本変種の葉は厚くて光沢があり、ほこ形。

【分布の状況】 国内では北海道から本州北部の日本海側海岸に分布する。県内では海岸砂地に希に分布する。

【生育を脅かしている原因】 海岸砂地の開発、廃棄物投棄、観光、海水浴客による踏圧、採取などが生育を脅かす。

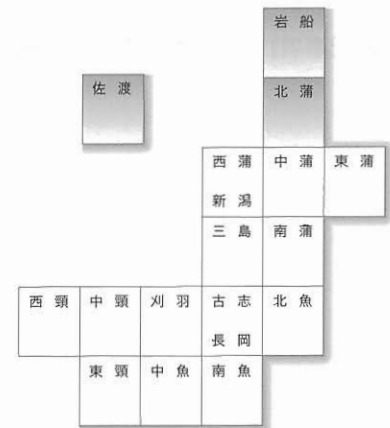


## 【選定理由】 減少

【形態と近似種】 低地、丘陵地に生育する。多毛。地下茎は短い。葉は卵形から狭卵形で、長さ1~5cm、基部は浅い心形、柄は長さ3~10cm。果期の葉は大きく長さ8cm。花柄は高さ5~10cm。春に濃い赤紫の花が咲き、花弁の長さ10~13mm、距は細長く長さ6~8mm。短い地下茎、卵形の葉、全体に毛の多いことから他種と区別できる。

【分布の状況】 国内では北海道から九州に分布する。県内の分布は、佐渡、岩船、北蒲原でわずかに確認されている。

【生育を脅かしている原因】 土木工事などによって生育地が破壊されるおそれがある。

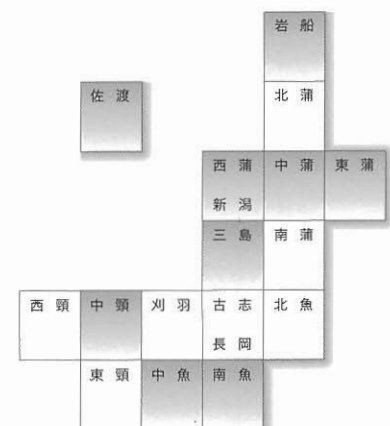


## 【選定理由】 減少

【形態と近似種】 丘陵、山地の林縁、林床など樹陰に生育する多年草。地下匍枝を出して群落をつくることもある。草丈は7~12cm、全体にあら毛がある。長い葉柄のある長卵形の葉の基部は深い心形。葉裏は淡緑で葉の表面には葉脈に沿って白斑の出ることがある。5~6月開花。花冠は白いが唇弁に紫条の入ることもある。花柄、側弁共に有毛。近似種のケマルバスミレは匍枝が出ない。

【分布の状況】 国内全域に分布する。県内では希に分布し、個体数も少ない。

【生育を脅かしている原因】 生育地の林縁、林床、路肩は、伐採や補修工事で植生の破壊されることが多い。そのためこの種はしばしば存続を脅かされている。

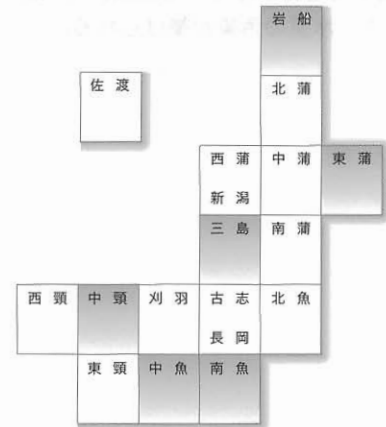


【選定理由】 減少

【形態と近似種】 水田や湿地に生育する繊細な一年草。草丈3~10cm、茎は地面を這い、立ち上がって分枝し、3~4枚の葉を輪生する。葉は細く長さ5~10mm、先端は切形、茎の上部の葉は短い。花は8~10月、葉腋に単生し、花柄はなく、花径は約0.8mm、雄ずいは2~3個、花弁を欠く。がくは5裂して鐘形。近似種のミズスギナには白色の花弁がある。

【分布の状況】 南方系で、本州中部以西に分布する。県内では北部、中部、西部の水田や湿地に分布する。かつては個体数も多く見られたが、最近著しく少なくなった。

【生育を脅かしている原因】 水田の乾田化、開発にともなう湿地の減少、除草剤の多用などによる生育環境の悪化が、減少の主要な要因である。

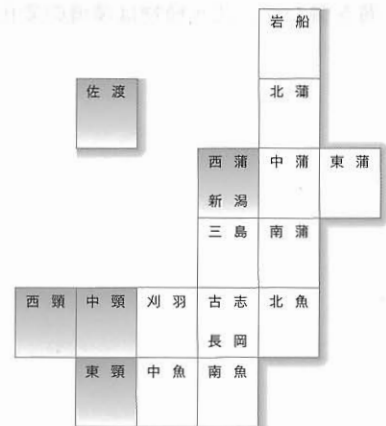


【選定理由】 減少

【形態と近似種】 一年生の浮葉植物。浮葉は長さ1.5~3.5cm、幅1~3cmのやや縦形。葉身が小さいため鋸歯があまり見えない。花も小さく白から薄桃色である。果実はやや縦長で幅約2cm、刺は果体より長い。ヒシは本種より果実が大きく、県内に生育地も多い。ヒシよりさらに大型の果実をつけるオニビシも県内に分布するが極めて希である。

【分布の状況】 本州、四国、九州の湖沼、ため池、水路などに群生する。各地で消滅が相次ぎ、県内の生育地は福島潟を最後に他では確認していない。最近福島潟でも確認されず、絶滅した可能性がある。

【生育を脅かしている原因】 湖沼やため池の埋め立て、農地の改変などによる生育地の減少や、水質汚濁によって減少が進んだと考えられる。



**オグラノフサモ** *Myriophyllum oguraense* Miki

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

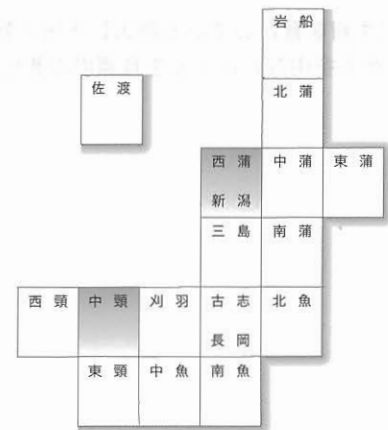
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】 減少

【形態と近似種】 多年草の沈水植物。葉は羽状で4~5枚輪生し長さ2~4cm、各裂片の長さ5~20mm。花期は7~9月。花序を水面上に出し、上に雄花、下に雌花をつける。果実の長さ約2mm。フサモに似るが、本種では一般的に花序の気中葉が緑白色であり、また、殖芽の長さがフサモの1.5~3cmに比して、本種では2.5~8cmと細長い棒状である。

【分布の状況】 本州以西の湖沼、ため池、河川などに分布する。フサモと混同されている場合がある。生育地の減少により県内では希産である。

【生育を脅かしている原因】 河川改修や農地、観光開発などによる生育地の減少、水質の汚染が挙げられる。



**ホザキノフサモ** *Myriophyllum spicatum* L.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

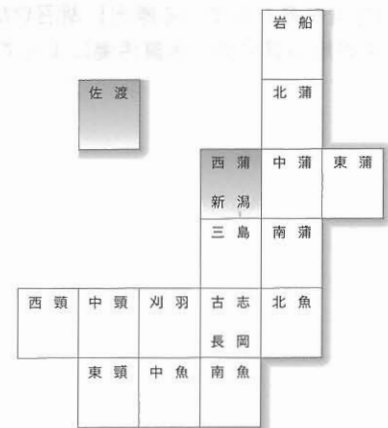
環境庁カテゴリー

【選定理由】 減少

【形態と近似種】 湖沼に生育する沈水植物。茎は水中で長く伸びる。水中にある葉は4枚が輪生し、羽状に深裂する。花序は水面から突き出て直立し、小さい花を多数つける。水上葉は本種ではごく小さいが、近似種のフサモではやや大きくて羽裂する。水上葉がなければ本種とフサモとの区別は困難である。

【分布の状況】 国内では北海道から九州まで広く分布する。県内では低地に希に分布する。

【生育を脅かしている原因】 湖沼の干拓、埋め立て、水質汚染などが本種の生育を脅かす。沈水植物は環境の変化に特に敏感である。



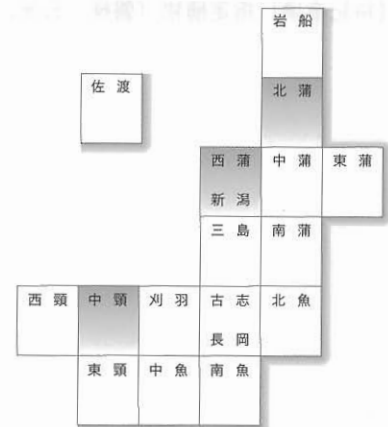


## 【選定理由】 減少

【形態と近似種】 浅い湖沼や湿地に生育する多年草。生育環境によって著しい形態の変化があり、水中では茎は長く伸びて沈水性となる。湿地では地上で生育し、茎は匍匐し、先が短く直立する。水中葉は3~4枚輪生、羽状に深裂し、地上葉は針形である。花はごく小さく、夏、直立した茎の葉の腋につく。本種は雌雄異株で茎は枝分かれしないが、フサモなどは雌雄同株で茎は枝分かれする。

【分布の状況】 国内では北海道から九州に分布する。県内では低地の湖沼、湿地に希に分布する。

【生育を脅かしている原因】 湖沼や湿地の土木工事、干拓、埋め立て、排水、水質汚濁などが本種の生育を脅かす。最近特に減少が著しい。

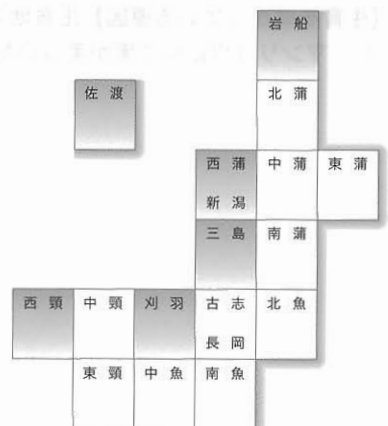


## 【選定理由】 減少

【形態と近似種】 海浜に接する畑地の防風柵やそで垣、船小屋の風背面などに群生する。越年草。やや多肉質で茎は根元から多数そう生し、斜上する。草丈は10~50cm。葉は単羽状複葉、上部の葉は3裂し、下部の葉は5裂して葉柄がある。8~10月に複散形花序をつけて開花する。

【分布の状況】 国内全域の海岸に分布し、県内では北部、中部、西部、佐渡の海岸砂丘に分布する。最近は個体数が激減している。

【生育を脅かしている原因】 港湾造成のための海浜の掘削、波浪による海岸浸食、その防止のための防波堤建設などで地形や植生が破壊され、個体数の減少が著しい。



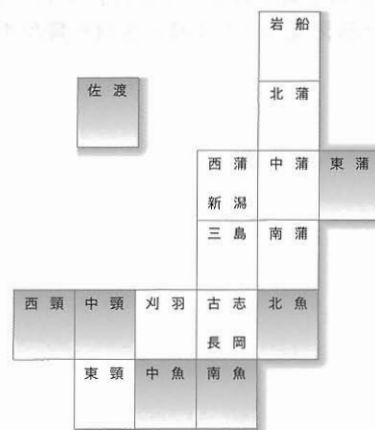
【選定理由】減少、採取

【形態と近似種】山地の林縁など、木陰に生育する草丈15~25cmの多年草で、地下茎から群生する。葉は円形で、光沢があり、ロゼット状にそう生する。3~5cmの葉柄がある。6~8月、稜角と1~3個の鱗片葉のある花茎を伸ばして開花する。花冠は桃色。近似種のイチャクソウの花冠は白い。

【分布の状況】北方系の種。国内では中部地方以北に分布する。県内では丘陵から山地にかけて希に分布する。

【生育を脅かしている原因】山地の森林の林床に生育し、花が美麗であるため採取されることが多い。

【特記事項】指定植物（磐梯、日光、上信、中部、越後、佐渡）。

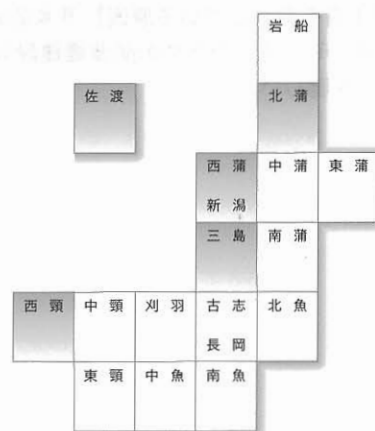


【選定理由】減少、採取、局限・孤立、分布限界

【形態と近似種】常緑樹林の林床に生育する常緑の小低木、高さ20~100cm、匍匐茎がある。茎は分枝しない。葉は互生し、狭卵形、長さ8~20cm、幅1.5~4cm、表面に光沢がある。花序は葉腋または鱗片葉の腋につく。夏、散形に約10個の白色の花がつき、径7~8mm。実は秋に赤く熟す。マンリョウに似るが、本種の葉はより細長い。

【分布の状況】国内では本州西部、四国、九州、琉球に分布する。県内では比較的海岸近くの温暖な地域に希に分布する。新潟県が本種の国内分布の北限である。[文献]石沢進,1986.

【生育を脅かしている原因】生育地である常緑樹林の伐採のおそれがある。また、マンリョウに似て実が美しいため、採取されるおそれもある。



ウミミドリ

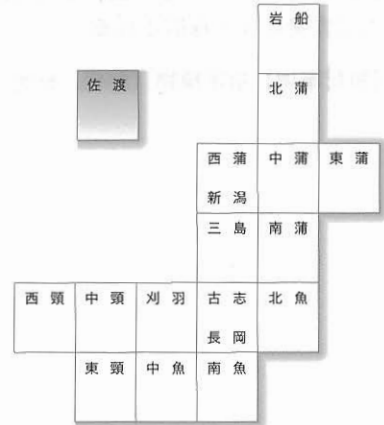
*Glaux maritima* L. var. *obtusifolia* Fern.

【選定理由】 減少

【形態と近似種】 海岸湿地に生育する塩生植物、多年草。横に這う地下茎から10~20cmの丸い茎を立てる。葉は無毛で光沢があり、やや多肉である。夏、葉腋に花をつける。花冠を欠き、がくは淡紅色をおび、径6~7mmの花冠状となる。さく果は球形無毛で先に花柱が残存する。キカシグサは一見似ているが、全く別の種で、花の径3mm、水田などに生育する。

【分布の状況】 北方系の種で、国内では中部地方以北の海岸の湿地に生育する。県内では佐渡の海岸だけに分布する。本種の佐渡における分布は国内分布の南限に近い。

【生育を脅かしている原因】 護岸工事、干拓などの開発による塩性湿地の減少により個体数が減り、人の立ち入りなどによっても生育が妨げられている。



ギンレイカ(ミヤマタゴボウ)

*Lysimachiaacroadenia* Maxim.

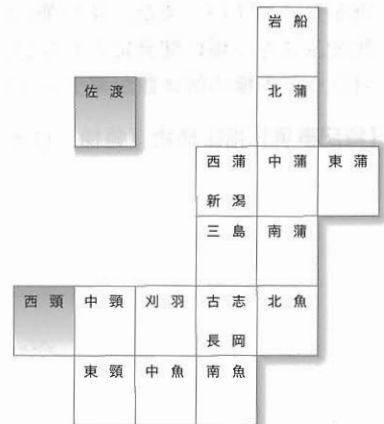
【選定理由】 減少

【形態と近似種】 林縁などに生育する草丈30~70cmの多年草。茎は直立分枝し、稜角がある。葉は長さ5~10cm、広披針形または狭卵形で薄く、葉柄にはひれがあり、葉の葉裏、茎には紫色の腺体がある。花は6~7月、総状花序にまばらにつく。花冠は長さ5~6cm、5裂する。がくも5深裂、花柄と共にまばらに腺毛がある。雄ずいは花冠とほぼ同長。

【分布の状況】 南方系の種で、国内では本州以南に分布する。県内では佐渡と県西部に分布するが、希で個体数は少ない。県内の分布域は比較的低い地域であるが、西日本ではかなり海拔の高いところにまで分布する。

【生育を脅かしている原因】 生育地が居住地に近いために、林道整備や森林伐採などの開発により消滅する危険が高い。

【特記事項】 指定植物(親不)



**クリソウ** *Primula japonica* A.Gray

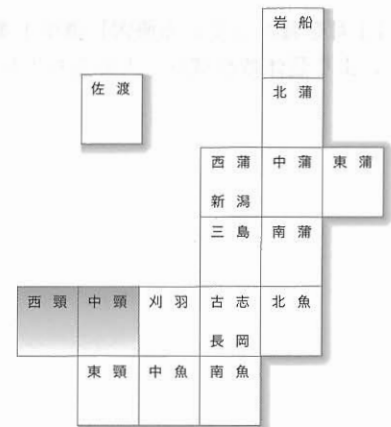
【選定理由】 減少、採取

【形態と近似種】 山地の溪谷や山麓の水湿地に生育する根生葉のある大型の多年草。草丈は20～60cmに達し、葉は長さ15～30cm、膜質で無毛、基部は次第に細くなり葉柄の翼とつながり、ロゼットをつくる。6月、30～60cmの花茎を伸ばし、その先に花が数段の輪状に咲く。花径は約2cm、花冠の下部は筒状、上部は5裂し先は凹頭である。近似種のオオサクラソウはやや小型、葉の形が楕円形で歯牙があり、花は段状につかない。

【分布の状況】 国内では北海道、本州、四国に分布し、県内では西部の山地に限られて分布する。

【生育を脅かしている原因】 生育地は伐採や植林の対象となりやすい。また栽培のためによく採取される。

【特記事項】 指定植物（磐梯、日光、上信、中部）。



**オオサクラソウ** *Primula jesoana* Miq.

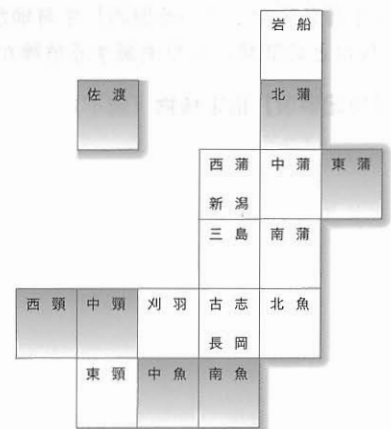
【選定理由】 減少、採取

【形態と近似種】 山地上部から亜高山にかけて、溪谷の湿った草地や林縁に生育する多年草。草丈15～40cm、サクラソウ属の中では大型の種。葉は5～12cm、楕円形で先に不ぞろいな歯牙があり、葉縁は細裂し、葉柄がある。葉、茎、共にほぼ無毛。6～7月、花茎を抽出し、先に4～8個、しばしば2段に花をつける。花冠は紅紫色。

【分布の状況】 国内では北海道、本州中部以北に分布し、北方系の種である。県内では山地に希に少数分布する。

【生育を脅かしている原因】 生育地は急斜面が多く、雪崩や崩壊などの自然災害を受けやすい。また、花が美しいため採取の対象となる。林道や登山道の開設、スキー場の開発にともない、人々が入山しやすくなった地域では最近目立って本種の個体数が減少している。

【特記事項】 指定植物（磐梯、日光、上信、中部、越後、佐渡、胎内）。



**ハイハマボッサ** *Samolus parviflorus* Rafin.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

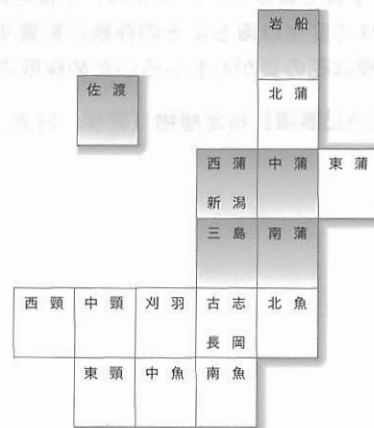
【選定理由】 減少

【形態と近似種】 海岸に近い湿地に生育する多年草。草丈10～30cm、茎は細く上部は分枝する。根生葉は2～6cm、幅1～2cm、基部は線状に伸びる。葉は上部になるに従い小型となり茎に互生する。6～8月、茎の先端は分枝してまばらな総状花序をつけ、小花柄の先に先端の5裂した白い小型の花をつける。

【分布の状況】 国内では兵庫県、山口県以北に分布する。県内では北部、中部の海岸沿いの湿地に希に分布し、大佐渡や内陸の山地にも分布する。

【生育を脅かしている原因】 波浪による海岸浸食、湿地の乾燥、開発による埋め立てなどにより、最近生育地の減少が著しい。

【特記事項】 指定植物（瀬波）。



**ハシドイ** *Syringa reticulata* (Bl.) Hara

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー

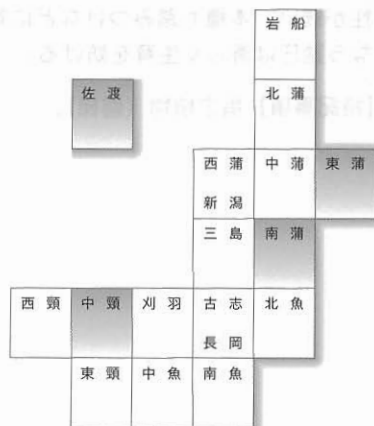
【選定理由】 減少、局限・孤立

【形態と近似種】 落葉小高木。枝は暗色で光沢と横向き皮目があり、サクラの樹皮に似る。葉は対生し、広卵形で基部は円く、先端は急に尖る。葉身の長さ6～8cm、幅3.5～6cmで1～2cmの葉柄がある。葉の上面は濃緑色で無毛、下面は淡緑色で全面とくに中肋の基部近くに白色の短い軟毛がある。初夏、白色で直径約5mmの漏斗形の花を多くつける。果実は細長い楕円形である。

【分布の状況】 北海道、本州、四国、九州の山地に分布する。県内では東蒲原郡、南蒲原郡、中頸城郡と佐渡に分布する。

【生育を脅かしている原因】 森林の伐採や林道の整備、さらには観光開発などによって生育地の減少が懸念される。開発の際には十分な配慮が望まれる。

【特記事項】 指定植物（阿賀）。



**トウヤクリンドウ** *Gentiana algida* Pallas

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー

【選定理由】 減少、採取、局限・孤立

【形態と近似種】 県境の高山の草原やれき原に生育する多年草。草丈は10～20cm。細長い線形の8～15cmの根生葉をもつ。根茎があり、花茎は直立し、茎葉は短い。8月ごろ花茎の先に1～3個の花をつける。花冠は淡黄色で大型、淡緑色の小斑点がある。花冠の先は5裂し、裂片の間には副片がある。

【分布の状況】 北方系の種で、国内では中部地方以北に分布する。県内では希な種で、西部の高山主稜近くの草原やれき原に分布し、個体数は少ない。

【生育を脅かしている原因】 生育地は高山で環境の厳しい地域である。環境条件の変化は直ちにその存続に影響する。踏みつけは環境悪化につながる。本種は花の姿がおもしろいため採取されることも多い。

【特記事項】 指定植物（磐梯、日光、上信、中部）。



**イデリンドウ** *Gentiana nipponica* Maxim. var. *robusta* Hara

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】 減少、分布限界

【形態と近似種】 高山に生育する草丈約10cmの多年草。茎の基部は細く地面を這う。葉は卵状披針形、長さ7～15mm、幅3～7mm、対生する。7～8月、茎の先端に1～2個の花をつける。花冠は大型で径30mmに達するものもある。花冠副片は狭三角形で開花期には直立する。近似種のミヤマリンドウの花冠副片は開花時に平開する。

【分布の状況】 国内でも新潟県北部県境の飯豊山系に特産する。[文献]上野雄規(編),1991.

【生育を脅かしている原因】 高山の草原に生育する種は攪乱や干渉に対する耐性が弱い。本種も踏みつけなどに対する抵抗力は弱く、登山者の増加にともなう踏圧は著しく生育を妨げる。

【特記事項】 指定植物（磐梯）。



# イヌセンブリ

*Swertia diluta* (Turcz.) Benth. et Hook.fil.  
var. *tosaensis* (Makino) Hara

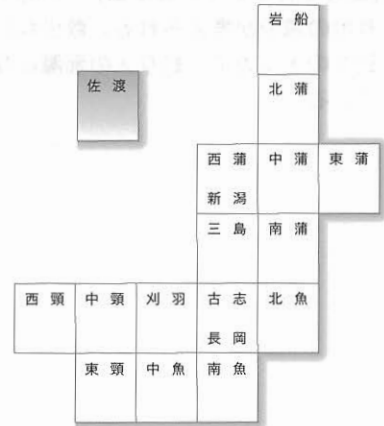
新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】 環境悪化、局限・孤立

【形態と近似種】 山野に生育する小さな草本。茎は分枝し、高さ5～30cm。茎葉は倒披針形、長さ2～5cm、鈍頭。秋に円錐状に花が付き、花冠は白で淡紫色の条があり、径15mm、5深裂し、裂片の長さ8～10mm。センブリに似るが、本種の葉はやや幅が広く、歯でかんでもセンブリ特有の苦味がない。

【分布の状況】 国内では本州から九州に分布する。県内では佐渡だけでわずかに分布が確認されている。

【生育を脅かしている原因】 現在、生育地の草地は人が刈って維持されているが、今後、そうした管理がなくなれば、遷移が進み草地が減少し、本種の生育が危うくなる。



# ミツガシワ

*Menyanthes trifoliata* L.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー

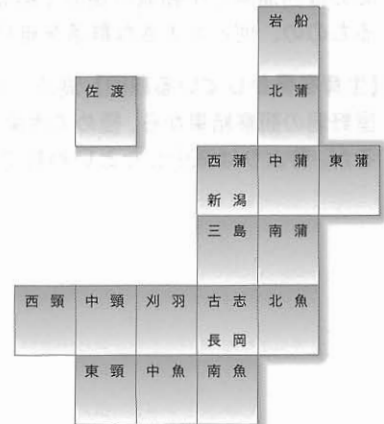
【選定理由】 減少

【形態と近似種】 多年草の抽水植物。緑色の太い根茎が地表または水面下を分枝しながら伸び、その頂端に数個の葉を束生する。葉の柄は長さ15～60cm、3小葉で各小葉は卵状楕円形、長さ4～12cm、幅2.5～8cm、花期は北日本では7～8月。花は総状花序につき、径1～1.5cmの白色、下から順次開花する。果実は球形で径3～8mm、中に光沢のある黄褐色の種子が入っている。氷河期の遺存植物といわれている。

【分布の状況】 主に北日本の湖沼や湿地内の池塘などに群生する。県内では広く分布するが希である。主に山地の池などに生育するが、一部は低地にも分布する。

【生息を脅かしている原因】 低地の生育地が農地開拓、観光開発、水質の汚染などにより減少している。

【特記事項】 指定植物（磐梯、日光、上信、中部、越後、佐渡）。



# ガガブタ

*Nymphoides indica* (L.) O.Kuntze

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

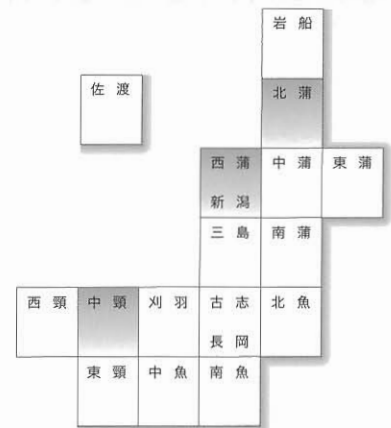
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

**【選定理由】** 減少

**【形態と近似種】** 多年草の浮葉植物。塊状の根茎から茎状の長い柄を伸ばし、その先に浮葉が展開する。柄は水深に応じて伸びる。葉はほぼ円形で7~20cm、基部まで切れ込む。花期は7~10月。花は葉柄の基部から多数出て次々と開花し、白色で径約15mm、内側全面に白毛がある。水草として栽培されているハナガガブタが逸出し野生化している報告があるが、県内では見られない。

**【分布の状況】** 本州以西の湖沼、ため池に群生する。県内の生育地は希である。

**【生育を脅かしている原因】** 河川改修、湖沼、ため池などの埋め立てによる生育地の減少が考えられる。数少ない生育地の内、白根市の大通川はヘラブナ釣りのメッカで、釣り人の邪魔になるため本種が陸に上げられ、年々減少している。



# アサザ

*Nymphoides peltata* (Gmel.) O.Kuntze

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

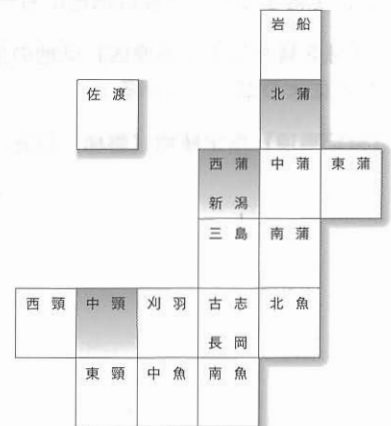
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

**【選定理由】** 減少

**【形態と近似種】** 多年草の浮葉植物。地中を匍匐する地下茎から水中茎が伸び、水中茎の節から伸びる葉と地下茎から直接伸びる長い葉柄をもつ葉がある。葉身は卵形から円形で基部は深く切れ込み、長さ4~12cm、幅4~9cm、低い鈍鋸歯がある。花期は6~9月、黄色で径3~4cm、葉腋から束生する集散花序を出す。集団によっては開花が極めて希なことがある。

**【分布の状況】** 全国の湖沼、ため池、水路などに群生するが、各地で消滅が相次いでいる。県内で現在も確実に生育するのは西蒲原と中頸城の湖沼である。新潟市鳥屋野潟では年により増減があるものの、何とか大きな群落を維持している。

**【生育を脅かしている原因】** 湖沼の埋立や干拓などが本種の生育を脅かす。鳥屋野潟の観察結果から、極めて汚染された水質にも耐えて生育することが分かるが、昔よりは減少したといわれている。



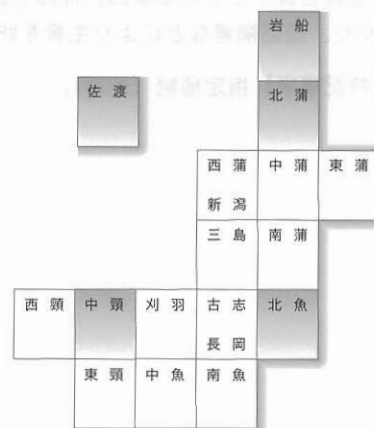


## 【選定理由】 減少、局限・孤立

【形態と近似種】 河岸や原野のやや湿った草地に生育する多年草。草丈は40～80cm、葉は披針形、長さ6～10cm、茎に互生し無毛、葉の表面に比べて葉裏は淡緑色である。5～6月にかけて茎頂の散形状の花序に淡青色の花を多数つける。花冠は高杯状で基部は筒状、先端は裂開する。

【分布の状況】 国内では本州、九州に分布する。県内の北部、中部、西部、佐渡に分布するが、分布域はごく狭く局限され、個体数も少ない。

【生育を脅かしている原因】 この種が生育する河岸や湿地は河川工事や土地整備事業の対象になることが多く、人為的干渉の多い地域である。最近生育地の破壊が多く、個体数も減少してきている。また、花が美しいため採取されることも多い。

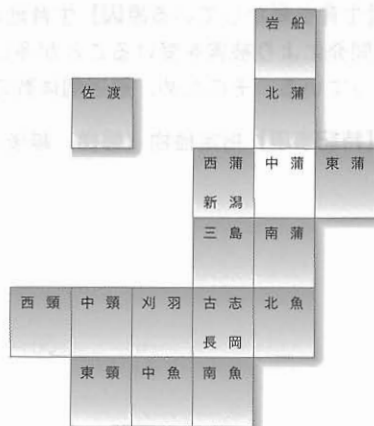


## 【選定理由】 減少、局限・孤立

【形態と近似種】 山野の日当たりのよいやや乾いた草地に生育する多年草。茎は直立、草丈40～100cm、茎の先端はつるにはならない。葉は線状披針形、両端はやや尖り、幅1.5cm以下、質はやや厚くて茎に対生。7～8月、茎頂に細い柄のある花序をつくり、まばらに花をつける。花冠は黄褐色、裂片は無毛。

【分布の状況】 国内全域に分布し、県内ではほぼ全域に分布するが、生育地は局限されており、個体数もわずかである。

【生育を脅かしている原因】 生育地が集落や林道などに近いため、農地の改変や開発の影響により草地が減少し、本種の個体数は減少している。



ムラサキ科

# ホタルカズラ

*Lithospermum zollingeri* DC.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境庁カテゴリー

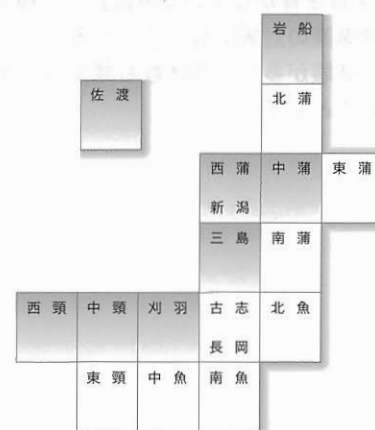
【選定理由】 減少、採取

【形態と近似種】 日当たりのよい乾いた林縁や草地に生育する多年草。茎は細く草丈15~25cm、全体に開出した粗毛がある。葉は長さ約5cmで長へら形。花後長く這う無花枝を出す。花は青紫色、5月ごろ上部の葉腋に開く。花径は約10mm、花冠は5裂し各裂片の中央には縦に白色の隆起がある。

【分布の状況】 国内全域に分布する。県内では粟島、佐渡、中部、西部に分布するが、いずれもその地域で孤立しており、連続していない。なお、多くは沿海地域に分布するが、妙高山の裾野などではかなり内陸まで分布する。

【生育を脅かしている原因】 林縁や路肩の草地に多く生育するため、伐採や草刈り、道路補修などにより生育を妨げられることが多い。

【特記事項】 指定植物（佐渡）。



ムラサキ科

# エチゴルリソウ

*Omphalodes laevisperma* Nakai

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境庁カテゴリー

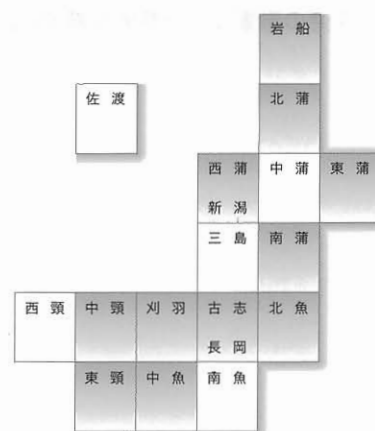
【選定理由】 減少、採取

【形態と近似種】 丘陵から山地の林内や林縁のやや湿った場所に生育する多年草。草丈は約30cm、葉形は広倒披針形、根生葉は茎中部の葉より小さい。5月に開花。2分枝した花序に短い柄の花をつける。花径約1cm、花色は碧色。花冠の先端とがくは5裂する。分果は円形で縁には鍵状の刺がない。近似種のルリソウは分果の縁に刺があり、ヤマリソウは花序が2分しない。

【分布の状況】 国内では北陸地方とその周辺に分布が限られる。県内には比較的広く分布するが、他県では希である。

【生育を脅かしている原因】 生育地が山麓から丘陵であるため居住地に近く、開発により被害を受けることが多い。また、花が美しいため採取の対象になっている。そのため、最近個体数の減少が著しい。

【特記事項】 指定植物（磐梯、越後、阿賀、長岡）。

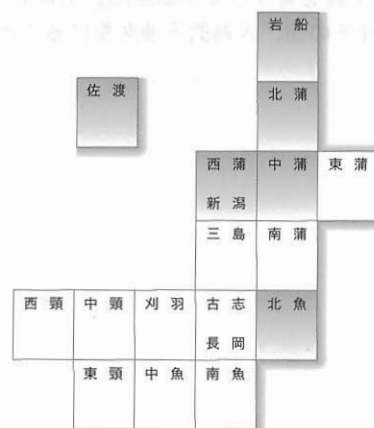


## 【選定理由】 減少

【形態と近似種】 落葉低木で、秋に紫色の美しい実がなり、栽培もされる。高さ約2m、枝は細長く紫色をおび、先が下がる傾向にある。葉は対生し、倒卵状楕円形、長さ3~7cm、幅1.5~3cm、先の方に少数の鋸歯がある。花序は葉腋の上から出て、長さ1~1.5cmの柄がある。夏に淡紅紫色の小さい花をつける。近似種のムラサキシキブの花序は葉腋から出て、また、葉には多数の鋸歯がある。

【分布の状況】 国内では本州、四国、九州に分布する。県内では低湿地に希に分布する。

【生育を脅かしている原因】 湿地の埋め立て、開発、排水、伐採などによって生育が脅かされる。

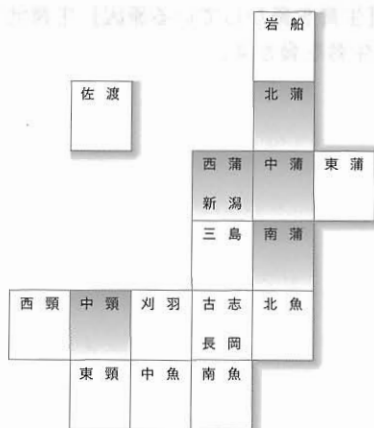


## 【選定理由】 減少、局限・孤立

【形態と近似種】 低地の湖沼などの水湿地に生育する多年草。茎は草丈30~50cm、下部は長く横に這って地下茎となる。葉は無柄で細く披針形、普通4個ずつ輪生する。8月ごろ茎頂の花序に密生して桃色の花をつける。花冠の先は4裂し、雄ずいは花の外に長く突き出て花糸には長毛が密生する。

【分布の状況】 国内では本州、四国、九州に分布する。県内では平野部の湖沼周辺の湿地や水深の浅い水辺に生育するが、既に消滅したところも多い。ことに都市周辺では希な種となっている。

【生育を脅かしている原因】 生育地は居住地に近い地域のため、開発による埋め立てや水質汚染の影響を強く受けている。

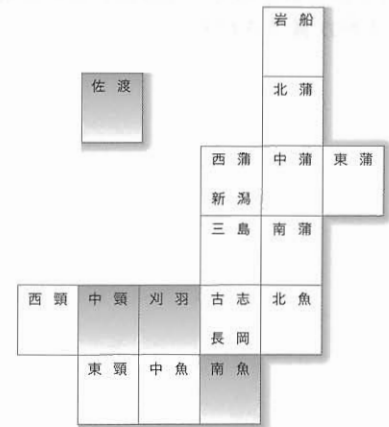


## 【選定理由】 減少

【形態と近似種】 山地や丘陵地の日の当たる草原に生育する多年草。草丈60～100cm、茎は直立し、下向きの硬い粗毛がある。葉にはあらい鋸歯があり、卵形で葉身の長さ5～9cm、上部の葉は次第に小さくなる。花は8～9月、上部の葉の葉腋に数個ずつつく。花冠は2唇形で淡桃色、長さ25～30mm、外側に白毛が密生する。近似種のメハジキは葉が深裂する。

【分布の状況】 国内全域に分布する。県内では佐渡や西部、南部に分布し、希である。

【生育を脅かしている原因】 生育地が山麓から丘陵地の居住地に近いため、開発その他、人為的干渉を受けることが多い。

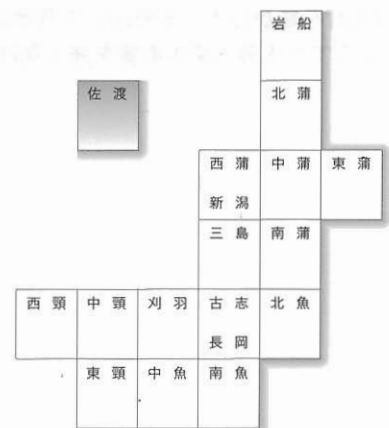


## 【選定理由】 環境悪化、希少

【形態と近似種】 日当たりのよい丘陵地などに生育する一年草。茎は4角形で白い短毛があり、分枝して高さ10～40cm。葉は卵形から狭卵形で、長さ1～3cm、幅7～17mm、鋭頭、低い鋸歯があり、基部はくさび形。花穂は1～4cm、秋、密に花をつける。花冠は淡紅紫色、長さ約3mm。ヒメジソと同じ属であるが、本種の苞はがくとして長楕円形、花序はより短い。

【分布の状況】 国内では北海道から九州に分布する。県内では佐渡だけに分布する。

【生育を脅かしている原因】 生育地である草地の減少や人の立ち入りが本種の生育を脅かす。



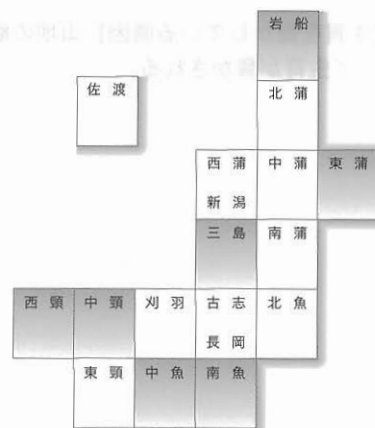
## 【選定理由】採取

【形態と近似種】山地溪谷の陰湿な場所に生育する多年草。太い根茎があり草丈は30～60cm、無毛で枝は二叉し、基部には鱗片葉がある。葉は軟弱、長楕円形で基部と頭部は尖り、長さ10～20cm、下部の葉を除いて全縁である。5～6月、葉腋から3～5cmの花柄を伸ばし、先に暗紅紫色で鐘形の花を下向きにつける。花冠の先は5裂する。

【分布の状況】国内では本州、四国に分布し、県内では中部から西部にかけて多く、北部では少ない。中部、西部では大きな川やその流域の支流に沿って本種が生育する。

【生育を脅かしている原因】生育地が集落に近く、人々との接触の多い地域である。溪谷沿いの地域であるため崩壊や氾濫などの災害を受けることもある。また、薬用として採取されることもあり、最近個体数の減少が著しい。

【特記事項】指定植物（阿賀）。

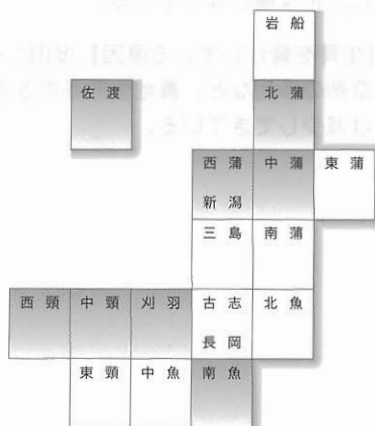


## 【選定理由】減少

【形態と近似種】山地の林縁や山道の路肩に生育するつる性の多年草。茎にはわずかに毛が生えるか無毛。葉は三角状広披針形から三角状卵形、先は細長く尖り、基部は円形かやや切形、葉縁にはしばしば波状の不規則な鋸歯があり、下部の葉は3～5裂。7～8月、集散花序に開花。花冠は紫色、花径は約1cm。液果は球形で赤熟する。近似種のマルバノホロシでは葉が3～5裂することはない。

【分布の状況】国内全域に分布し、県内では各地に分布するが、希である。

【生育を脅かしている原因】生育地の森林や草原が居住地に近いいため、農地整備、道路整備、伐採などの影響を受けやすい。また、直接刈り払いなどの被害を受けることが多い。

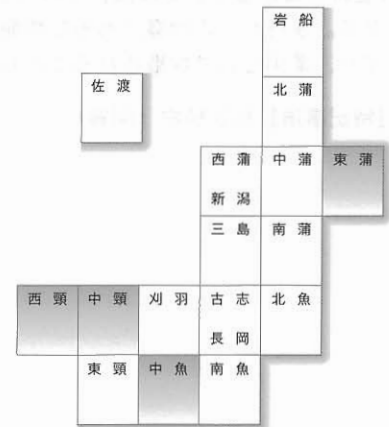


## 【選定理由】 減少、局限・孤立

【形態と近似種】 荒れ地に生育する高さ1~1.5mの落葉低木。茎には稜があり、断面は4角形、若枝には星状毛がある。葉は対生し、基部に半円形の托葉状の付属体がある。葉身は長さ10~20cm、幅2.5~5cm。夏、穂状の円錐花序に、一方に偏って紫色の花を多数つける。花冠は長さ15~17mm、外面は淡褐色の軟毛が密生する。本種の茎には稜があり4角であることと、葉柄に付属体のあることで、近似種から区別できる。

【分布の状況】 国内では本州(主に太平洋側)、四国に分布する。県内では主に西部に分布し、また、東蒲原の生育地は太平洋側と比較的低い海拔でつながる地域である。

【生育を脅かしている原因】 山地の崩壊地に生育するため、道路建設などによって生育が脅かされる。

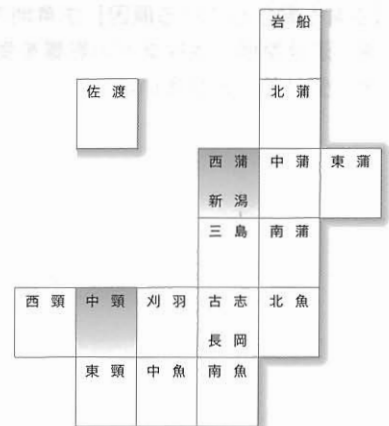


## 【選定理由】 環境悪化、希少

【形態と近似種】 水田や湿地に生育する一年草、水田雑草である。茎は太くて柔らかく基部で分枝し、草丈は10~20cmで直立、根出葉がある。葉は長楕円形で、茎に対生し、下部の葉は大きく、上に行くに従い小さくなる。8~9月、上部の葉腋に花をつけるが、上方の花は正常花、下方は閉鎖花で仮雄ずいが2本ある。花冠は紫色、花糸は真っ直ぐで曲がらない。近似種のおオアブノメには根出葉がない。

【分布の状況】 国内では本州から琉球に分布する。以前は県下各地の水田に生育したが、最近は甚だしく個体数が減少し、希な種となっている。

【生育を脅かしている原因】 湿田から乾田への工事や水溝のU字管の使用、除草剤の多用など、農地生態系の改変が著しく進んだ。これらにより水田雑草は減少してきている。



# オオアブノメ

*Gratiola japonica* Miq.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

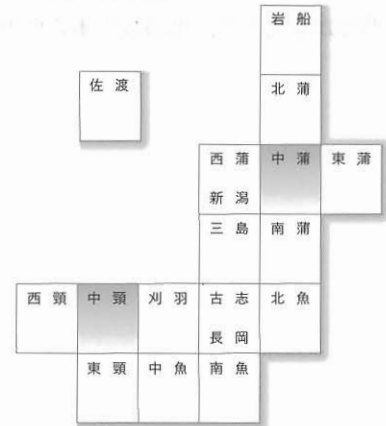
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

**【選定理由】** 減少

**【形態と近似種】** 水田や湿地に生育する一年草、水田雑草である。茎は柔らかくて太く、草丈10~20cm、根出葉はない。葉は披針形、全縁、3脈が走り無毛、葉柄はなく対生、基部は少し茎を抱く。花期はアブノメより早く、5~6月、上部の葉腋に花をつける。花冠は4~5mm、短い筒状で5裂してやや2唇形、完全雄ずいは2本で花筒につき、他の2本は仮雄ずいとなる。アブノメに比べて、本種では上葉と下葉で葉長の変化は少ない。また、アブノメには根出葉がある。

**【分布の状況】** 国内では宮城県以南の本州、九州に分布する。以前は県内の水田の各所に分布していたが、最近は個体数が減少して希な植物となっている。

**【生育を脅かしている原因】** 水田の乾田化や湿地の減少、除草剤の使用などが生育を脅かしている。



# イヌノフグリ

*Veronica didyma* Tenore  
var. *lilacina* (Hara) Yamazaki

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

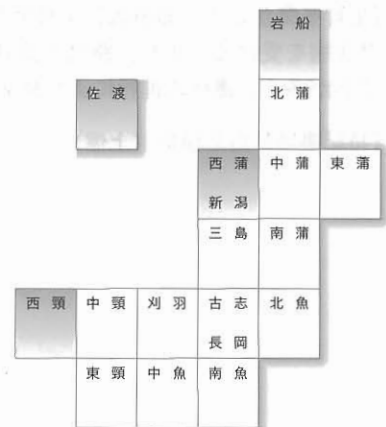
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

**【選定理由】** 減少

**【形態と近似種】** 路傍などの草地に生育する越年草。茎は下部で分枝して地面に広がり、長さ10~25cm。葉は茎の下部では対生、上部では互生し、卵円形、径4~11mm。春、茎の上部の葉腋に1個ずつ花をつけ、花柄は3~7mm。花冠は淡紅白色で小さく、径3~4mm。近似種の帰化植物であるオオイヌノフグリの花は青色で径7~10mmとより大きい。

**【分布の状況】** 国内では本州、四国、九州、琉球に分布し、自生である。県内では平野部に分布の報告があるが、ごく希である。

**【生育を脅かしている原因】** 生育地の環境が土木工事などで改変されると、生育できない。



**ヒヨクソウ** *Veronica melissaefolia* Poir.

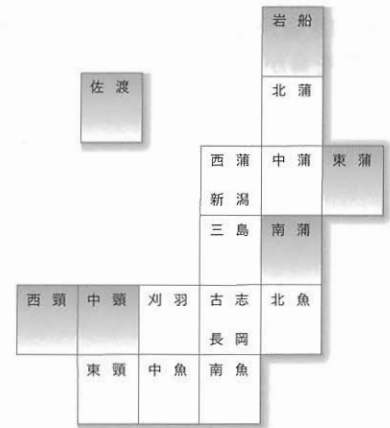
新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー

【選定理由】 減少

【形態と近似種】 山野の日当たりのよい草原に生育する繊細な多年草。草丈は25～70cm、短い地下茎をもち、茎は屈毛があり、下部は地を這うが、やがて直立する。葉は卵形で鋸歯があり、長さ3～4cm、茎に対生する。6月ごろ、上部の葉腋に総状花序をつける。花柄の長さは2～3mm、花径は6～8mmで先は4裂して花色は淡青色。

【分布の状況】 国内全域に分布する。県内では北部、中部、西部、佐渡に分布するが、生育地も個体数も少なく希な植物である。生育地は低海拔域から亜高山にまでおよぶ。

【生育を脅かしている原因】 路傍や路肩の草地に生育することが多いため、生育地が草刈りや土地造成工事の対象となり最近著しく個体数を減じている。



**グンバイツル** *Veronica onoei* Franch. et Savat.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

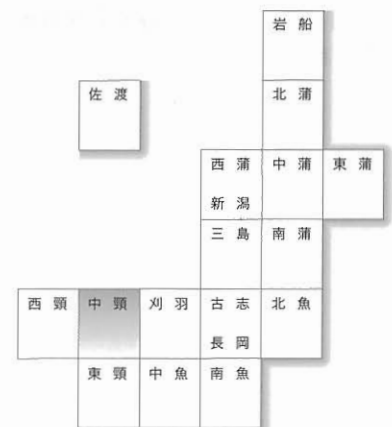
【選定理由】 環境悪化、希少

【形態と近似種】 山地から亜高山の草原の縁や日当たりのよい乾いたれき地などに生育する小型のつる性多年草。茎は長く地を這い、節から発根する。葉は楕円形でやや厚く長さ約2cm、光沢があり微毛がある。7～8月、葉腋から総状花序を直立し密に花をつける。花冠は淡青色、漏斗状鐘形で先端は4深裂する。

【分布の状況】 国内では中部地方東北部から関東地方北部以北に分布する。県内ではごく希な植物で、妙高高原町の狭い地域に分布は限られている。

【生育を脅かしている原因】 生育地がれき地であることが多く、崩壊などの自然災害を受ける。また、路傍や路肩の生育地では、踏みつけの被害を受けることが多く、遷移の進行により衰退することもある。

【特記事項】 指定植物（上信）。





**テングクワガタ** *Veronica tenella* All.

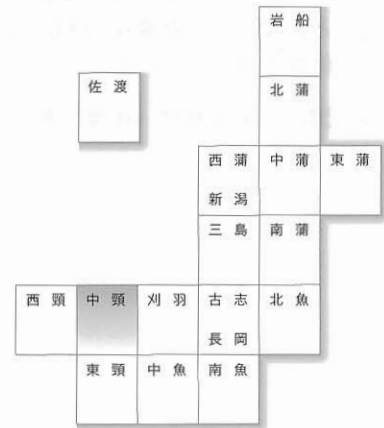
【選定理由】 減少

【形態と近似種】 山地の上部から亜高山にかけて、明るい草原の縁辺や露岩の上に生育する小型の多年草。茎の下部は長く地上を這い、草丈は10～30cmで細毛がある。葉は楕円形で長さ1～2cm、3本の太い脈が走り、毛はほとんどない。6～8月ごろ、茎頂の細長い花序に径5～7mmの花をつける。花柄には腺毛があり、花冠の先は5裂する。

【分布の状況】 北方系の種で、国内では中部以北に分布する。県内では西部の亜高山に希に分布する。

【生育を脅かしている原因】 施設建設、登山道開設などの観光開発、人の踏みつけ、植林などによって草原が破壊され、本種の生育が脅かされている。また、遷移の進行により日陰となり、衰退することも多い。

【特記事項】 指定植物（上信、中部）。



**オニク** *Boschniakia rossica* (Cham. et Schltdl.) Fedtsch. et Flerov

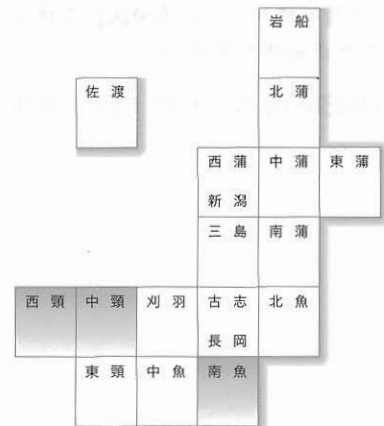
【選定理由】 減少、採取

【形態と近似種】 ミヤマハンノキの根に寄生する寄生植物。茎は茶褐色、太くて直立、草丈15～30cm。基部は塊状。厚い3角状の鱗片葉が密に重なって茎を包む。7月に上部鱗片葉の間に多数の花をつける。がくは杯状で截形、花冠は濃褐紫色で直立して前に曲り、2唇形で上唇は下唇より著しく長い。

【分布の状況】 北方系の植物。本州中部以北に分布する。県内では妙高山系や県境山地の亜高山上部から高山にかけて希に分布する。

【生育を脅かしている原因】 登山者の増加にともない、踏みつけによりミヤマハンノキの林床の荒廃が進み、著しく個体数を減じている。奇異な形態と薬用のために採取されることも多い。

【特記事項】 指定植物（日光、上信、中部、越後）。



**ハマウツボ** *Orobanche coerulescens* Stephan

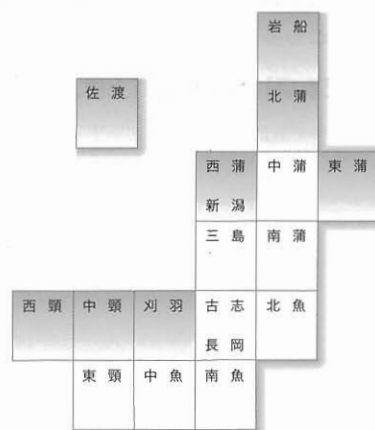
【選定理由】 減少

【形態と近似種】 カワラヨモギに寄生する一年草。茎は太く草丈は15~30cm、やや薄い鱗片葉がまばらに茎につき、全体に長白毛が生える。基部は塊状。5~7月に開花。花冠は上部鱗片葉の葉腋から花茎を伸ばしてつく。花は淡紫色、または淡黄色で、上唇と下唇はほぼ同長。

【分布の状況】 国内ではカワラヨモギの分布にともない、全域に分布する。県内では海岸砂丘に分布する。個体数は少ない。

【生育を脅かしている原因】 波浪による砂浜の浸蝕、防波堤・道路の工事、それにともなう人々の踏みつけなどにより海岸植生が破壊され、最近著しくその個体数が減少している。

【特記事項】 指定植物（佐渡、瀬波）。



**キヨスミウツボ** *Phacellanthus tubiflorus* Sieb. et Zucc.

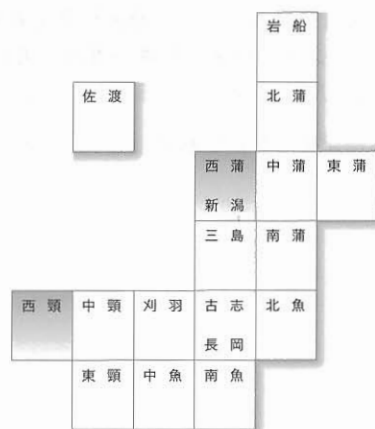
【選定理由】 減少

【形態と近似種】 山地の森林の林床や林縁に生育する白色、淡黄色の寄生植物。カシ類の根に寄生することが多い。草丈5~10cm、全体無毛、茎は多数の鱗片葉に包まれる。花は6~7月、茎頂に5~10個束生し、はじめは白色のち黄色に変わり、長さ2.5~3cm。花冠は2唇形、長い筒状で斜上し下唇は3裂する。

【分布の状況】 国内全域に分布する。県内では少なく、中部、西部の低海拔域の常緑広葉樹林に分布する。西頸城ではかなり内陸の落葉樹林の林床に生育することもある。個体数も少ない。

【生育を脅かしている原因】 森林伐採、それにともなう人々による林床の踏みつけなどの被害が大きい。

【特記事項】 指定植物（上信、佐渡、胎内）。



**ノタヌキモ** *Utricularia aurea* Lour.

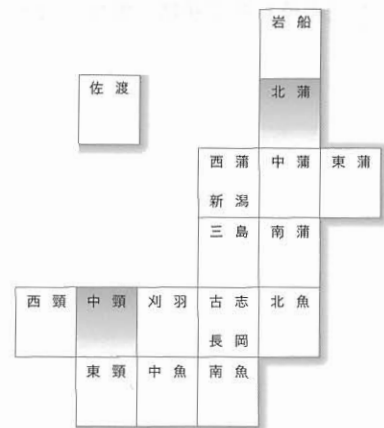
新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー

【選定理由】 減少、分布限界

【形態と近似種】 ため池や湖沼に生育する食虫植物で、一年草または多年草の水生植物。茎はよく分枝し、葉は基部から3本の枝に分枝し、それがさらに立体的に分枝する。この特徴が他のタヌキモ属と異なる。花期は7~10月、3~11個の花をつけ、花柄は花期には細いが、果実期には先のほうが太くなる。

【分布の状況】 本州以西に分布し、新潟県が国内分布の北限である。県内の生育地はごく希であるが、生育地では群生する。[文献]角野康郎,1994.

【生育を脅かしている原因】 人の立ち入りや水湿地の減少、水質汚濁などが原因である。水生植物全般にいえることだが、近年、水辺に親しもうと言うキャッチフレーズのもと、ため池や湖沼の公園化などの整備によって、減少や絶滅を招いている(北蒲原郡・清潟など)。



**ミミカキグサ** *Utricularia bifida* L.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー

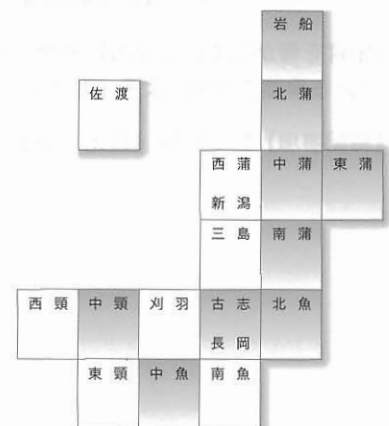
【選定理由】 減少

【形態と近似種】 湿地に生育する多年草。地下茎は泥中を匍匐し全縁、線形の地上葉と花軸を抽出する。草丈は7~15cm、花軸の上部に少数の膜質の鱗片葉がある。花軸の基部に仮根を束生し、まばらに捕虫囊をつける。8~10月に開花、花色は黄色、長さ約3.5mm、がくは果時には耳掻き状となる。近似種のホザキノミミカキグサは花期が早く花冠は淡紫色。

【分布の状況】 国内全域の湿地、湖沼に分布する。県内の湿地、湖沼に分布するが最近著しく減少している。

【生育を脅かしている原因】 開発にともなう水湿地の減少、除草剤など農薬の多用による水質汚染が原因である。

【特記事項】 指定植物 (日光)。



# ヒメタヌキモ

*Utricularia multispinosa* (Miki) Miki

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

**【選定理由】** 減少

**【形態と近似種】** 貧栄養の湖沼やため池、湿地などに生育する水生植物。タヌキモ類では一番小型で茎の長さ5~30cm。葉はまばらで互生、細裂片は二叉状に分枝し長さ5~15mm。花期は8~9月。殖芽は直径7mm。

**【分布の状況】** 全国に分布する。県内の生育地は山ぞいの湿地やため池であるが、希である。

**【生育を脅かしている原因】** 生育地が山地やそれに近いところのため、水質汚染は少ないが、人の踏みつけ、ため池の改修などにより消滅している。

**【特記事項】** 指定植物（磐梯、日光、上信、長岡）。



# ホザキノミミカキグサ

*Utricularia racemosa* Wall.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境庁カテゴリー

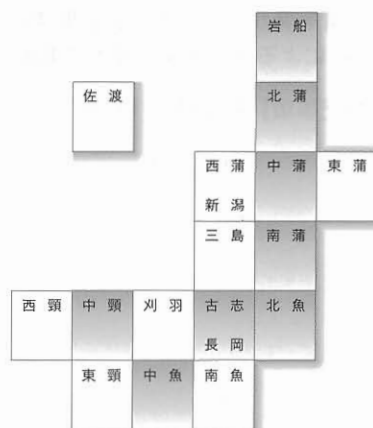
**【選定理由】** 減少

**【形態と近似種】** 向陽の湿地に生育する多年草。根茎は泥中を匍匐し、全縁の地上葉と直立する花軸をつける。花軸の基部に仮根を束生し、それに捕虫囊をつける。花軸は高さ10~30cmで直立する。6~9月に開花。花冠は淡紫色、径約4mm、距は下唇の2倍、前に突き出る。本種にはがくに細かい乳頭状の突起があり、花軸の鱗片葉が中央部に盾状につくことから、他のミミカキグサの仲間と区別される。

**【分布の状況】** 南方系の湿生植物で、国内全域に分布する。県内では北部から中部、西部の沖積平野に点在する湿地に広く分布する。最近は個体数の減少が甚だしい。

**【生育を脅かしている原因】** 開発にともなう湿地の減少、除草剤その他水田における農薬の多用による水質汚染がその生育を妨げている。

**【特記事項】** 指定植物（日光、上信）。



# イヌタヌキモ

*Utricularia tenuicaulis* Miki

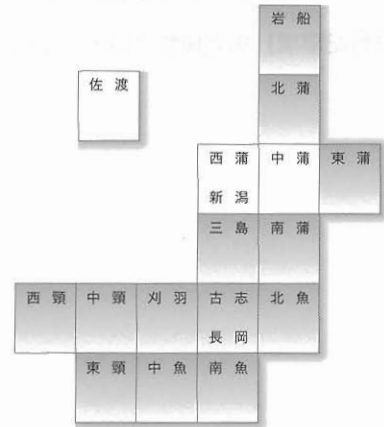
新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー

**【選定理由】** 減少

**【形態と近似種】** 多年草の浮遊植物。茎は細くて長さ1mに達するといわれるが、県内産は30cmを超えるのは希である。葉はタヌキモに比べてまばらで、長さ1.5~4.5cm、捕虫囊はやや多い。花期は7~9月、花茎は中実。殖芽は長楕円形で暗褐色。タヌキモと同種とする考えがあったが、今回は別種として扱う。タヌキモに比べて全体が小型、また、タヌキモの殖芽は球形で径1~2cm、本種の殖芽は長楕円形で長さ4~10mm。

**【分布の状況】** 全国に分布する。県内の分布は広く、山地の湖沼などに生育する。従来、イヌタヌキモとタヌキモは混同して扱われていた。今までタヌキモとされてきたものにはイヌタヌキモが多い。

**【生育を脅かしている原因】** 水湿地の開発、農地の改変などによる生育地の減少がある。山地の池などに生育するものは人為的影響は少ないが、水質の悪化などにより減少傾向にある。



# タヌキモ

*Utricularia vulgaris* L.  
var. *japonica* (Makino) Tamura

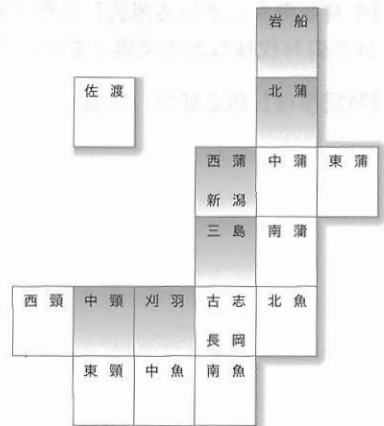
新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

**【選定理由】** 減少

**【形態と近似種】** 多年草の浮遊植物。地中に固着することもあるが根はない。茎は分枝しながら伸び1m以上にもなる。葉は互生、基部で2本に分かれ、それぞれがさらに3~4回に分かれる。各裂片は糸状で多くの捕虫囊がつく。花期は7~9月、日本では確かな結実例はないといわれている。イヌタヌキモと同種とする考えがあったが、今回は別種として扱う。本種の殖芽は球形で径1~2cm、イヌタヌキモの殖芽は長楕円形で長さ4~10mm。

**【分布の状況】** 北海道、本州の湖沼、ため池、水路、湿原の池塘などに生育する。県内の生育地は極めて希で、低地で人家近くの沼や池などに分布する。今までタヌキモとされてきたものは、イヌタヌキモであることが多い。

**【生育を脅かしている原因】** もともと生育地は希であったと思われるが、水湿地やため池の減少、水質汚染などが減少に拍車をかけたと考えられる。



**ムラサキミミカキグサ** *Utricularia yakusimensis* Masam.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

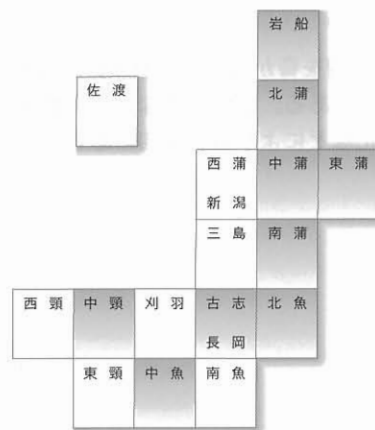
【選定理由】 減少

【形態と近似種】 日当たりのよい湿地に生育する多年草。地下茎は泥中を匍匐し、へら形で全縁の地上葉と直立する花軸がある。花軸の基部に仮根を束生し捕虫囊をつける。花軸は高さ10～30cm、数個の鱗片葉がある。花冠は青紫色、ときに白色。近似種のホザキノミミカキグサにはがくの外側に細かな乳頭状の突起があり、本種のはがくにはない。

【分布の状況】 国内全域に分布する。県内では湖沼周辺の湿地に希に生育する。沖積平野の湖沼に限らず、泥炭化のかなり進んだ山地の湿地に生育することもある。

【生育を脅かしている原因】 開発にともなう湿地の減少が本種の生育を脅かす。

【特記事項】 指定植物（日光、上信）。



**レンブクソウ** *Adoxa moschatellina* L.

新潟県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類  
環境庁カテゴリー

【選定理由】 減少

【形態と近似種】 山地のやや湿った林床や林縁に生育する小型の多年草。細い地下茎をひき繊細で無毛。1対の短い柄のある茎葉をつける。4～5月、茎頂に白色のほぼ無柄の花を集合してつける。頂生の花は径4～6mm、花冠が4裂して8雄ずい、周りの花は花冠が5裂して10雄ずい。

【分布の状況】 国内では近畿地方以東に分布する。県内では希な種であって、阿賀野川の流域と中部、南部、西部の県境の山地に分布する。個体数は少ない。

【生育を脅かしている原因】 小型で繊弱な植物であるため、人々による踏みつけや森林伐採などの環境の変化に対する抵抗力は弱い。

【特記事項】 指定植物（阿賀）。

